

あ と が き

先日、応用物理学会の報告書「応用物理分野のアカデミックロードマップの作成」（2008年3月）を入手しました。19の研究分野毎に、時間軸（現在～2040年）と空間軸（開発要素項目等）で俯瞰されたビジョン・ロードマップが示されています。研究者及び関係者が時間軸を有するビジョンを共有し、新学術価値の創成や新規・融合分野の開拓、学術に立脚したイノベーションの創出に繋げていくことを狙った企画です。

核データ分野における2040年までの将来ビジョン（夢）を1枚のロードマップに描くとすると、どうなるのでしょうか。核データのような基礎・基盤研究の場合、それは難しいという意見もあるでしょう。しかし、分野の活性化のために、ビジョンを共有し、存在意義を対外的にアピールする組織的な活動が今こそ必要とされていることには異論はないと思います。周囲では危機感を持った方々が活性化に向けた模索を続けておられます。その一環として企画された、3月の原子力学会春の大会における核データ部会・シグマ特別専門委員会合同セッション「我が国の核データ活動を展望する」の講演記事が本号に掲載されていますので、ぜひ一読ください。その中の「核データ活性化WG活動報告」に登場する『某炉物理研究者から核データ研究者への十項目の苦言（十戒）』を真摯に受け止め、魅力ある研究課題を新規開拓していく努力が必要だと痛感した次第です。

次回の原子力学会秋の大会は、坂本龍馬の生まれ故郷である高知で開催されます。学生時代に近畿大にて学会デビューを果たした後、研究室の仲間達と四国巡礼の旅をしたことを思い出します。それ以来、二十数年振りの高知です。桂浜に立って、幕末の日本の方向付けに大きな貢献をした龍馬に思いを馳せながら、核データのビジョン・ロードマップでも描いてみませんか。

渡辺 幸信

watanabe@aces.kyushu-u.ac.jp

核データニュース編集委員会

中川庸雄（委員長、原子力機構）、井頭政之（東工大）、石川 眞（原子力機構）、
岩本 修（原子力機構）、山野直樹（東工大）、吉田 正（武蔵工大）、渡辺幸信（九大）
[オブザーバ] 喜多尾憲助、[編集] 石橋貞子